

大気浮遊じんの放射能濃度測定結果

問合せ 生活環境課 ☎24-5231

ちりやほこりに付着した放射性物質の飛散状況を調べるため、市内10地点で収集した大気1m³あたりの放射性物質の濃度を測定しました。

測定地点		放射能濃度 (mBq/m ³)	
		1/20~1/27	1/13~1/20
小高区	川房公会堂 (川房)	セシウム134	不検出
		セシウム137	不検出
	金房小学校 (飯崎)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.021
	塚原公会堂 (塚原)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.020
原町区	横川ダム (馬場)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.033
	原町保健センター (小川町)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.025
	高平生涯学習センター (下高平)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.030
	市立総合病院 (高見町)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.031
	大原公会堂 (大原)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.031

測定地点		放射能濃度 (mBq/m ³)	
		1/20~1/27	1/13~1/20
鹿島区	鹿島区役所 (西町)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.020
	鹿島区3-3消防屯所 (南海老)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.014

※検出限界値はおおむね0.02~0.03mBq/m³の範囲にありますが、測定サンプル毎に変動します。そのため、データの記載がない日は、放射能濃度が検出限界値未満の値であり「放射能不検出」と判定されます。

● 渡邊正己 京都大学名誉教授
(市放射線健康対策委員会委員長)による解説●

市内の天気浮遊じん中のセシウム137濃度は、平均値が0.015mBq/m³と極めて低い濃度であり、また自然放射線量の日々変動の範囲であることから、健康影響について心配はいりません。春はすぐそこまで近づいています。ほこりの多い季節になりますが、このところの浮遊粉じんの放射能測定結果から、健康に影響を及ぼすような高い濃度の放射性物質が飛散する可能性は極めて低いと思われます。今後も不安を感じる場合は、市が公表している測定データを確認するようにしてください。